



予防接種

予防接種は、感染症から子どもを守るために非常に効果の高い手段の一つです。
対象となる年齢になったら早めに予防接種を受けましょう。

病気のなかには乳幼児がかかりやすく、かかると重症化して重い後遺症を残したり、命にかかわるものがたくさんあります。予防接種は、感染症から子どもを守るために非常に効果の高い手段の一つです。対象となる年齢になったら早めに予防接種を受けましょう。

※定期予防接種の接種料金は無料ですが、対象年齢を過ぎて接種を希望する場合は有料となります。

～たらちねクリニックで実施している予防接種～

- ☆麻疹・風疹混合（MR1期2期）
- ☆日本脳炎
- ☆DPT-IPV（四種混合）
- ☆DT（ジフテリア・破傷風）
- ☆水痘
- ☆おたふくかぜ
- ☆インフルエンザ



麻疹・風疹（MR）

MRは麻疹と風疹を予防するワクチンです。どちらの病気も感染力が強く、麻疹は今でも流行することがあり、重症化すると命を落とすこともあります。風疹も合併症の心配がありますので、公費で受けられる1才になったらすぐに接種しましょう。また、確実に免疫をつけるためにも小学校入学前の1年間に、2回目を受ける必要があります。

麻疹（はしか）…麻疹ウイルスが原因で、接触・飛沫だけでなく空気感染もします。1週間ほどの潜伏期間があり、発症1日前から感染力ががあります。最初は発熱・咳・鼻水・眼球結膜の充血・目やに・発疹が主症状です。最初の3～4日間は38℃前後の発熱で一度熱が下がります。その後半日ほどで再び39～40℃の発熱と発疹が出ます。発疹は顔～足まで全身に広がります。7～9日目に解熱し、次第に発疹も消失していきますが、しばらくは色素沈着が残ります。発疹が出る1～2日前に頬粘膜に白い発疹（コプリック斑）が出るのが特徴です。

主な合併症として、中耳炎、気管支炎、肺炎、脳炎などを併発して、後遺症を残したり命を落とすことも多い重い病気です。

風疹…風疹ウイルスが原因で頸のリンパ節が腫れ、発熱、発疹が見られます。麻疹ほど症状は重くないものの、脳炎を併発したり、妊娠初期に罹患すると先天性風疹症候群と呼ばれる先天性の心臓病、白内障、聴力障害、発育発達遅延などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性が高くなります。

接種時期

1期…1才～2才未満

2期…小学校入学前の1年間



日本脳炎

日本脳炎に感染した豚を刺した蚊が人を刺すことで感染します。ヒトからヒトへの感染はありません。日本脳炎ウイルスに感染しても発症しないことがほとんどですが、100～1000人に1人は、40℃以上の高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎を発症します。死亡率も20～40%と高く、助かっても45～70%の人に重い後遺症が残ります。

2005年に副反応で急性散在性脳脊髄炎（ADEM）という病気が報告され、厚生労働省がワクチンを積極的にすすめない時期がありました。その後、安全なワクチンが開発され、2010年に定期接種となりました。

接種時期

1期…6ヶ月～7才半までに3回接種。

6日以上の間隔（標準的には6日～28日）をおいて2回接種、

2回接種後6ヶ月以上の間隔（標準的には1年）をおいて1回追加。

2期…9才～13才未満までに1回



DPT-IPV（四種混合）、DT

ジフテリア（D）、百日せき（P）、破傷風（T）、不活化ポリオ（IPV）

ジフテリア…ジフテリア菌がのど、鼻、目などの粘膜に感染して起こります。症状は高熱、喉の痛み、犬吠様の咳、嘔吐などです。呼吸困難、神経麻痺、心筋炎などが起き、亡くなることもある重い病気です。予防接種のおかげで、今はほとんど見られなくなりました。

百日せき…百日せき菌の飛沫感染で起こります。普通の風邪症状から始まり、続いて咳がひどくなり、顔を真っ赤にして連続的に咳き込むようになります。咳の後に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。通常熱は出ません。乳幼児は咳で呼吸ができず、くちびるが青くなったり、けいれんが起きたり突然呼吸が止まることがあります。

破傷風…破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が、傷口から体内に侵入することで感染します。菌が体内で増えると、菌の出す毒素のために、筋肉の強直性けいれんを起こします。最初は口が開かなくなるなどの症状があり、やがて全身の強直性けいれんを起こすようになり、治療が遅れると死に至ることもあります。

急性灰白髄炎(ポリオ)…ポリオウイルスが口から入って感染します。感染した人の0.1~2%に手足に麻痺が残ったり、死亡することもある病気です。予防接種のおかげで、日本では自然感染の患者は出ていません。

接種時期

1期…DPT-IPV（四種混合）3ヶ月~7才半までに20日以上の間隔（標準的には20~56日）を
おいて3回接種。3回目終了後6ヶ月以上（標準的には1年~1年半）おいて1回追加。

2期…DT（ジフテリア、破傷風）11才~13才未満で1回



水痘

水痘は水痘帯状疱疹ウイルスに初めて感染したときに起こります。感染力がとて強く接触・飛沫・空気感染で広がります。2週間程の潜伏期間があり、最初のかゆみのある小さな紅斑から始まり、3~4日後には水疱となり、最後は痂皮（かさぶた）になります。発疹は腹・背中・顔に多い傾向がありますが、頭にもできるのが特徴です。通常は1週間程度で自然治癒しますが、まれに脳炎や肺炎、肝機能異常を伴うことがあり、抗ウイルス薬（アシクロビルなど）が使用されることもあります。成人が水痘にかかると小児より重症になりやすい傾向にあります。

保育所、幼稚園、学校への登園・登校は、全ての発疹が痂皮化する（かさぶたとなる）まで停止となります。感染後はウイルスが神経節に潜んでいて、加齢や免疫力が落ちたときに帯状疱疹を発症します。

接種時期

1才~3才未満で3ヶ月以上の間隔をおいて2回接種。



おたふくかぜ

ムンプスウイルスに感染して耳下腺が炎症を起こします。2～3週間の潜伏期間があり、発病数日前～耳下腺の腫脹が治まった後5日経過するまでは、周りの人に感染させる可能性があります。感染しても症状自体は軽いのですが、合併症の頻度が高くなります。合併症で最も多いのは、無菌性髄膜炎で1～10%です。思春期以降にかかると精巣炎や卵巣炎を合併することもあります。特に難治性である難聴合併への注意が必要です。

接種時期

1才を過ぎたら早めに受ける。確実に免疫をつけるためには、2回接種するのが理想。2回目は5才～7才までに追加1回接種するとよい。

インフルエンザ

インフルエンザウイルスの型は複数あるので、ワクチンは翌年に流行する型を予測して作られます。そのため、予防接種をしてもかかることがあります。症状は自然感染よりも軽くすみます。毎年12月中旬ごろから流行するため、その前に家族全員で予防接種を済ませておくことが大切です。

接種時期

毎年、流行する前の10～11月に接種が望ましい。

